

令和6年度 学校自己評価システムシート（さいたま市立 北浦和 小学校）

学校番号 011

【様式】

目指す学校像	十人十色のハーモニー～一人ひとりが幸せになる学校		
重点目標	1 主体的・対話的で深い学びの実現を目指す授業の改善（学力向上に向けて） 2 夢に向かって努力する豊かな心と健やかな体の育成（安心・安全に向けて） 3 家庭・地域との連携による潤いのある教育環境の整備と充実（地域と共にある学校に向けて） 4 新たな教師の学びの姿の具現化、働き方改革の推進（教職員の資質向上に向けて）		※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成	（8割以上）
	B	概ね達成	（6割以上）
	C	変化の兆し	（4割以上）
	D	不十分	（4割未満）

学校自己評価							学校運営協議会による評価	
年度目標							実施日令和7年2月20日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	<現状> ○令和5年度に取り組んだ「教科横断的な視点に立った資質能力の育成」の研究に加え、「自ら考え 協働的に学ぶ 児童の育成」を研究の柱として学校教育に取り組んでいく。 ○全国及び市の学習状況調査の結果から、全体的に学力は高いと言える。また、「話し合い活動が好き」と答えた児童が80%超である。 <課題> ○ICT機器の効果的な活用方法について研究を進め、授業実践を重ねていく必要がある。 ○主体的に取り組んだり友達と協力して取り組んだりする協働的な活動を推進する必要がある。	・ICT機器の効果的な活用と新しい教育アプリの活用による授業改善 ・個別最適な学びと協働的な学びの一体的な創出	<改善策> ①校内で、ICTに関わる研修を充実させて、授業改善を図る。 ②クラウド環境を有効活用した教育活動の実践に取り組む。	①授業等において、ICT機器を効果的に活用できているか。また、新しいアプリケーションを活用した授業実践を行えているか。 ②授業の中で、児童がクラウド環境を活用した活動ができるような実践を行ったか。	①ICT機器の活用度は高まった。効果的に活用できたという教員も76.9%と微増だったが、さまざまなアプリを授業で活用する教員が増加した。 ②クラウド環境を活用した授業展開がみられるようになってきているが、頻度についてはまだこれからである。	B	<課題>クラウドの活用頻度を高め、クラウドを活用した効果的な授業展開の工夫について研究を進める。 <改善策>様々な教育アプリの活用度は高まっているので、クラウドを活用した展開の工夫について研修を深め、実践する。	・「話し合い活動が楽しい」と回答した児童が80%を超えている。また、ICT機器を使った授業にも様々な工夫がみられるようになったのは日頃の研修の成果といえる。 ・タブレットだけでなく、紙の教材で学ぶことも大事にしていきたい。
2	<現状> ○自己肯定感を高め、自信をもってよい行動に移すことができるように環境を整備する。 ○児童数の増加により、空間的なゆとりを確保することが難しい。教室の床や昇降口等施設設備の老朽化も進んでいる。 <課題> ○自己肯定感を高め、自信をもってよい行動に移すことができるように環境を整備する必要がある。 ○運動の機会を増やスポーツに進んで取り組む環境を整備する。 ○児童が安全に学校生活を送ることが出来るように施設設備の安全点検を徹底する。	・特別活動の充実と児童自ら取り組む場の設定 ・児童の心に潤いを与える教育環境の整備と進んで運動に取り組む児童の育成	①学級、学年等様々な機会を通じて、児童が立案実行可能な企画を発達段階に応じて設定し、児童に達成感を味わわせる。 ②教職員の連携により、児童の成長を複数の目で観察し、多面的に支援・評価する。	①学校自己評価に係るアンケートで「より良い世の中を作っていきたい」と回答する児童が80%以上になったか。 ②教職員が連携する仕組みを3種類以上設定できたか。	①発達段階に応じた取組を進めたことによって、91.8%の肯定的回答が得られ、昨年度よりも0.3%上昇した。 ②児童理解に関する研修、個別のケース会議、学校運営協議会の提言を受けての取組、教科横断的な視点に立った取組などを実践した。	A	<課題>回答状況はよいが自己肯定感の低さが課題である。家庭との連携を密にして、自信をもってよい行動ができるように環境を整備する。 <改善策>児童が自己決定できる場を意図的に設定し、それを認めることによって次なる活動の意欲につなげていく。	・教室等に顔写真をたくさん掲示することは、児童の自己肯定感を高める工夫の一つといえる。自己肯定感は児童自身が頑張ったことで身につくので、個々の良さを認める実践を重視する中で高めていきたい。 ・学年が上がるにつれて対応が難しくなる。保護者や先生の言葉かけが心に響くと思うので、プラスの声かけを大切にしてほしい。
3	<現状> ○学校運営協議会による熟議により、本校の育てたい姿として「豊かな心を育む」という共通の願いをもつことができている。 ○教育活動を保護者や地域に公開し、理解と協力を得られるようにしている。 <課題> ○「豊かな心を育む」という共通の願いを学校運営委員会の委員が各立場で実現に向けて取り組む必要がある。委員だけでなく、共通の願いを保護者・地域の課題として共有できるよう働きかける必要がある。 ○地域と共にある学校の推進を目指し、学校HPをはじめとして、教育活動を保護者や地域に適切に公開する。	・目指す児童の姿を共有するための情報発信と教育活動の公開 ・教育活動の地域公開やHPの充実による学校発信の推進	①コミュニティ・スクールの課題を周知するために、児童代表が学校運営協議会に参加し、熟議を活発化させる。 ②「豊かな心を育む」という共通な願いの実現のためにとともに、教職員、児童が計画的に取り組む。	①学校自己評価に係るアンケートで「学校運営協議会の活動が分かる」と回答する保護者が70%以上になったか。 ②「豊かな心を育む」という願いの実現のために具体的な取組が実施できたか。	①学校評価アンケートにおいて、学校だより等での周知を行った結果、肯定的な回答が昨年度同様94.6%となった。 ②「ほめる・認める」取組を、学校・家庭・地域のそれぞれの立場で働きかけ、多くの取組実績を得ることができた。	A	<課題>学校運営協議会と学校との継続的な取組を進め、保護者の取組への更なる参画を働きかける。 <改善策>「ほめる・認める」取組実績を周知し、良好な親子関係の構築を図り、さまざまな取組に発展させる。	・「ほめほめシート」を書くことで、「ほめる、認める」取組の浸透につながってきている。今後も「豊かな心を育む」心の育成を学校・PTA・地域が一体となって図っていきたい。 ・豊かな心は良い言葉から育つと思う。悪口や悪意の意見を「減らす、なくす」事を日々努めてほしい。
4	<現状> ○教員の資質向上に向けて、研修を進めているが、ベテラン、中堅、若手があり、指導力に差がある。 ○教職員の働き方改革に向けて、教職員全体で協議をして、より効率的で効果のある取組を進めようとしているが、時間外在校時間が減少しないという実態がある。 <課題> ○多分野にわたって教職員の学ぶ場を設定し、教職員全体の指導力を向上させる必要がある。 ○個別最適な学びに向けたICTの一層の活用を推進する。 ○教職員のワークライフバランスを踏まえた地域との連携を図る。	・教員の指導力向上に向けて多分野の研修の実施 ・教職員のアイデアを生かした働き方改革の推進	①教職員自ら希望する研修が受けられるように時間を設定し、講話や演習を通して教師としての資質向上を図る。 ②教職員の「キャリア Navi」を活用し、自己研鑽としてのテーマを決めて取り組むようにする。	①教職員の資質向上のための一般研修を多分野にわたって実施することができたか。 ②全ての教員が、ICT活用を含めて自己研鑽を進め、資質向上のために取り組むことができたか。	①教職員資質向上のための一般研修を年間で18回実施することができた。先生方のニーズに合わせた研修が効果的だった。 ②一般研修の中でICT研修を実施し、実際の授業で活かすことができた。また、個々の目標に合わせて、外部研修会に参加したり、書籍を購入して学んだり、現地に行ったりして、個々で取り組むことができた。	A	<課題>研修体制をさらに整備し、人事評価制度との関連を図って、効率的な研修につなげていく。 <改善策>学校課題研修との関連で時間の確保を図って一般研修を実施する。また、キャリア Navi を自己研鑽の仕組みを整え、教員の資質向上のための取組として実施する。	・先生は忙しすぎる傾向にあるので、効率化できること、削れることを積極的に行なってほしい。また、サポート体制の充実も必要である。 ・教科担任制の実施は効果があった。 ・教員の指導力向上は、先輩への憧れから進んでいくと思うので、素敵な教員を集めて若い教員を刺激してほしい。
			①より効率的な学校運営が進められるように、行事等の見直しや会議の精選を図る。 ②計画的な年休の実施や業務自体の削減を図り、時間外在校時間の縮減を図る。	①昨年度と比較して、保護者・地域の理解を得ながら、業務改善を実施することができたか。 ②働き方改革に関する教職員のアイデアが3つ以上提案されたか。	①授業参観、懇談会、個人面談の時期や回数を改善し、教職員・保護者双方の負担が軽くなるようにした。 ②職員会議の簡略化、パソコンのソフト Teams の効果的な活用、中学年の教科担任制の実施等が提案され、実施している。	A	<課題>教員のアイデアを生かした更なる業務改善を図る。 <改善策>教職員の時間を生み出すために検討を進めながら、教材研究や児童と接する時間の確保を図る。保護者にとっても有益な改善を模索する。	